

薬剤給付の適正化に向けた取組について

新経済・財政再生計画 改革工程表2020 社会保障 4. 給付と負担の見直し

高齢化や現役世代の急減という人口構造の変化の中でも、国民皆保険を持続可能な制度としていくため、勤労世代の高齢者医療への負担状況にも配慮しつつ、必要な保険給付をできるだけ効率的に提供しながら、自助、共助、公助の範囲についても見直しを図る。

K P I 第2階層	K P I 第1階層	工程（取組・所管府省、実施時期）	21	22	23
—	—	57. 高齢者医療制度や介護制度において、所得のみならず資産の保有状況を適切に評価しつつ、「能力」に応じた負担の検討 a. マイナンバーの導入等の金融資産の把握に向けた取組を踏まえつつ、医療保険における負担への金融資産等の保有状況の反映の在り方について、2020年の関係審議会のとりまとめを踏まえ検討課題の整理を行うなど関係審議会等において、預金口座へのマイナンバー付番の状況を見つつ、引き続き検討。 b. 2019年度の関係審議会における審議結果を踏まえ、介護保険の補足給付の見直しについて、必要な周知広報を行いつつ、施行。《厚生労働省》	→		
—	—	58. 団塊世代が後期高齢者入りするまでに、後期高齢者の窓口負担について検討 a. 全世代型社会保障改革の方針（令和2年12月15日閣議決定）を踏まえ、課税所得28万円以上かつ年収200万円以上（単身世帯の場合。複数世帯の場合は、後期高齢者の年収合計が320万円以上）の方に限って、窓口負担割合を2割とすること等とし、2021年の通常国会に必要な法案の提出を図る。《厚生労働省》	→	→	
—	—	59. 薬剤自己負担の引上げについて幅広い観点から関係審議会において検討し、その結果に基づき必要な措置を講ずる a. 2020年の関係審議会のとりまとめを踏まえ、医療資源の効率的な活用を図る観点から、薬剤給付の適正化に向けて、保険者の上手な医療のかかり方及びセルフメディケーションの推進策の具体化について関係審議会において早期の結論を得るべく引き続き検討するとともに、その他の措置についても検討。《厚生労働省》	→		
—	—	60. 外来受診時等の定額負担の導入を検討 a. 全世代型社会保障検討会議や関係審議会等の議論を踏まえ、医療機関が都道府県に外来機能を報告する制度を創設し、地域の実情に応じて、紹介患者への外来を基本とする医療機関を明確化するための法制上の措置を講じる。 b. 上記を踏まえ、紹介状なしの大病院受診時定額負担に関して、当該医療機関のうち一般病床200床以上の病院にも対象を拡大し、保険給付の範囲から一定額を控除し、それと同額以上の定額負担を追加的に求めること等について、中央社会保険医療協議会で具体的に検討する。また、その結果に基づき、必要な措置を講ずる。《厚生労働省》	→	→	

社会保障審議会医療保険部会 議論の整理（令和2年12月23日）（抄）

（薬剤自己負担の引上げ）

- 薬剤自己負担については、改革工程表において、「諸外国の薬剤自己負担の仕組み（薬剤の種類に応じた保険償還率や一定額までの全額自己負担など）も参考としつつ、市販品と医療用医薬品との間の価格のバランス等の観点から、（中略）関係審議会において検討し、その結果に基づき必要な措置を講ずる」とされている。
- これを踏まえ、当部会においては、
 - ① 市販品類似の医薬品の保険給付の在り方
 - ② 自己負担の引上げ以外の方策による薬剤給付の適正化策（セルフメディケーションの推進等）等の各論点について議論を行った。
- ①市販品類似の医薬品の保険給付の在り方については、
 - ・ 皆保険制度を維持するためには、大きなリスクは共助、小さなリスクは自助という方向に進まざるを得ず、市販品類似薬については保険給付範囲からの除外や償還率の変更も考えざるを得ないのではないか
 - ・ 薬剤の自己負担の引上げについて、諸外国の例も参考としつつ、十分な財政効果が得られるような見直しを図っていくべきではないかという意見がある一方で、
 - ・ 医療上の必要性に応じて適切な医薬品を選択できるよう担保することが必要であり、財政問題だけで保険適用を見直すことは適当ではないのではないか
 - ・ 医療用と市販薬では、同一の成分であっても期待する効能・効果や使用目的、患者の重篤性が異なる場合があり、市販薬の有無で取扱いを変えるのは理解し難いのではないかという意見があった。
- ②自己負担の引上げ以外の方策による薬剤給付の適正化策については、
 - ・ 薬剤給付の適正化に向けては、自己負担の見直しのみならず、後発医薬品の利用促進やセルフメディケーション税制の拡充、生活習慣病の治療薬の在り方等についても検討すべき
 - ・ 新型コロナウイルス感染症による受診控えに伴い、OTC医薬品の利用が進むなど、患者の意識も変化しつつあるため、スイッチOTC医薬品に限らず、OTC医薬品全般の使用を進めるという観点で、セルフメディケーションの推進に取り組むべきではないかという意見があった。
- これらの意見を踏まえ、医療資源の効率的な活用を図る観点から、かかりつけ医やかかりつけ薬剤師と連携しつつ、保険者の立場からも上手な医療のかかり方とセルフメディケーションの推進策を講じるべきである。
- なお、市販品類似の医薬品の保険給付の在り方等の薬剤自己負担の見直しや他の薬剤給付の適正化策については、引き続き検討すべきである。

健保組合の成果連動型民間委託方式による保健事業への補助

- 「成果連動型民間委託契約方式（PFS）アクションプラン（令和2～4年度）」において、重点3分野の1つに「医療・健康」が位置づけられ、地方公共団体等が実施する保健事業について、PFSの普及促進が掲げられている。
- これを踏まえて、健保組合においても、PFSを活用した保健事業を推進するため、本補助事業を実施することでスキームを構築し、その成果の横展開を図る。

<事業イメージ>

成果連動型民間委託方式の事業スキームの構築

健保組合が成果連動型民間委託方式の事業スキームを構築するために要する費用を補助する。

厚生労働省

⑥ 補助金交付

① 公募

健保組合

対象者

④ 成果評価

⑤ 成果に応じた支払

② 成果連動型支払契約

③ 保健事業の実施

事業者

本取組の背景・目的

- 加入者の声から判明した課題**：当健保で実施した加入者へのインタビュー¹によると、コロナ禍における医療機関受診に苦慮している加入者が多く存在し、医療機関への受診やOTC医薬品の活用方法など、「上手な医療のかかり方」を加入者に普及・浸透させていく必要性が顕在化してきた
1:委託業者の協力を得て当健保組合加入者約50名に実施
- レセプト分析から判明した課題**：当健保の医療費の特徴として、軽度な症状の疾患にかかる医療費の割合が比較的大きいこともあり、早期発見・重症化予防と同様に軽度な症状の疾患の医薬品費適正化も喫緊の課題である

上記の課題認識のもと、「上手な医療のかかり方」を普及・啓発することによる「加入者の健康の維持増進」および「医療費の適正化」の両立を目的とし、本取組を実施する

本取組の内容

「上手な医療のかかり方」の一環として、セルフケア・セルフメディケーションに関する普及啓発活動から実践支援までを一貫して行い、加入者の行動変容を後押しする仕組みを構築

セルフケア・セルフメディケーション普及啓発活動

セミナー開催・広報活動

セルフケア・セルフメディケーションに関するセミナーを開催。組合ポータルサイトなどを活用した広報活動を実施

個別勧奨通知送付

医師・薬剤師と連携のうえ、レセプトデータからスイッチOTCの活用可能性がある患者を抽出し、セルフケア・セルフメディケーションに関するリーフレットを各自宅へ郵送

セルフケア・セルフメディケーション実践支援

サポート体制

症状に応じた受診勧奨や市販薬への切り替え時の注意点などの薬選び全般に関して薬剤師へ相談できる機会を提供

ECサイト・ヘルスケアポイント

スイッチOTC医薬品を購入出来るECサイトを活用し、同サイトで使用出来るヘルスケアポイントを提供することで加入者に対するインセンティブを提供

取組終了後の効果検証（現時点で想定する検証項目の例）

定性・定量の両面で効果を検証することにより、加入者の意識・行動およびセルフケア・セルフメディケーションの受容度を測定し、次年度以降の取り組みに反映

（※医療費適正化効果および薬剤師への相談回数については成果連動型報酬の指標として使用）

測定項目

行動変容への影響

使用データ

当健保のレセプトデータ

2018-2020年度及び今年度のレセプトを比較し、医療費適正化効果及び受診パターンの変化を検証

個別勧奨通知の効果

対象者をランダムに2群に分類、記載内容が異なる2種類のリーフレットを送り分けることで訴求内容の違いによる行動変容の差を検証

加入者の意識の変化

意識調査アンケート結果

取組前後でのセルフケア・セルフメディケーションの受容度（理解・実践）を検証

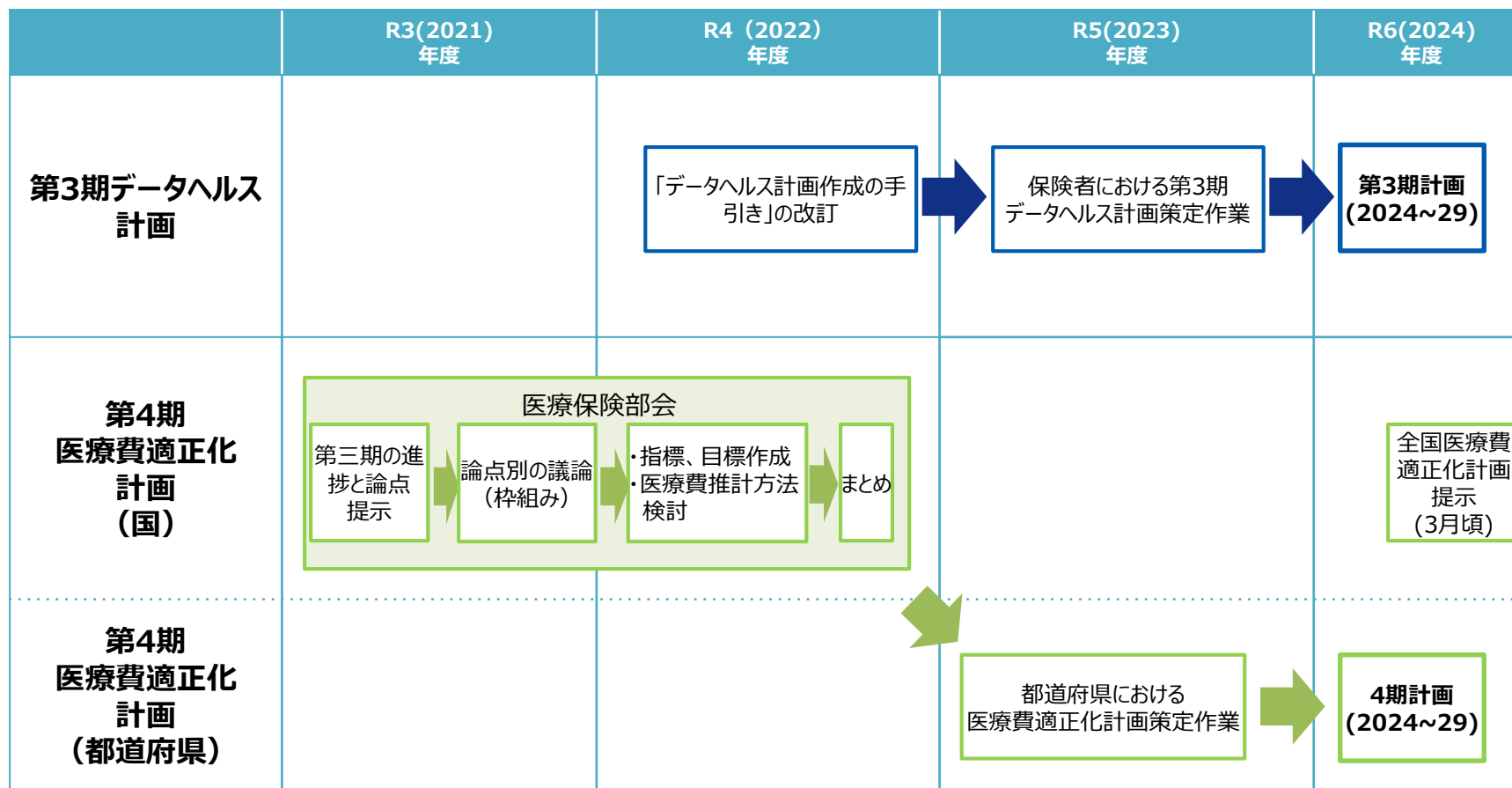
セルフケア実践への影響

薬剤師への相談数・内容

セルフケア・セルフメディケーションの受容度について、薬剤師への相談回数の推移や相談内容から検証

委託事業者への成果連動分の支払額は「対象疾患に係る受診の減少数」及び「薬剤師への相談件数」を指標とした算式で算定（予定）

(参考) 今後のスケジュール (案)



既存医薬品の保険給付範囲の見直し①

- 医薬品の保険給付範囲を見直す際、①OTC類似医薬品等を保険給付範囲から除外するやり方と、②医薬品を保険収載したまま、薬剤の有用性、負担する薬剤費等に応じて保険給付範囲を縮小するやり方がある。
- 前者については、現在、保険診療と保険外診療を併用して治療を行う場合には、原則として保険診療部分も含めて全額が自己負担とされているため、保険が適用されなくなる医薬品に係る薬剤料のみならず、初診料などの技術料も含めて全額が自己負担となりかねないことから、保険外併用療養費制度に新たな類型を設けるなどの対応が必要。
- 後者については、**薬剤の種類に応じた患者負担の設定、薬剤費の一定額までの全額患者負担**などのやり方があり、諸外国の取組も参考にしつつ、これらの手法を幅広く検討すべき。

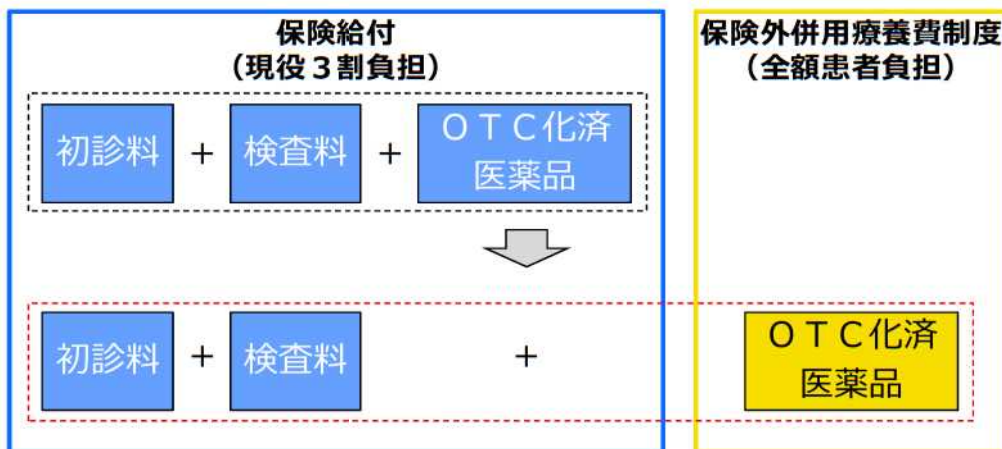
◆ 医薬品を保険給付対象から除外

過去の例	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養補給目的のビタミン製剤（2012） ・治療目的以外のうがい薬単体（2014） ・70枚超の湿布薬（2016）
今後の検討例※	<ul style="list-style-type: none"> ・花粉症治療薬（OTC類似薬を1分類のみ投薬する場合） ・保湿剤（他の外皮用薬等との同時処方がない場合）

※健康保険組合連合会「政策立案に資する レセプト分析に関する調査研究Ⅲ、Ⅳ」政策提言（2017,2019）を参照

（参考）保険外併用療養費制度の活用

⇒ 薬局でも買える医薬品を医療機関で処方する場合に、技術料は保険適用のまま医薬品だけ全額自己負担とする枠組みを導入



◆ 医薬品を保険収載したまま保険給付範囲を縮小

① 薬剤の種類に応じた患者負担割合の設定（フランスの例）

抗がん剤等の代替性のない 高額医薬品		0%
国民連帯の観点から 負担を行うべき 医療上の利益を評価して分類 (医薬品の有効性等)	重要	35%
	中程度	70%
	軽度	85%
	不十分	100%

② 薬剤費の一定額までの全額患者負担（スウェーデンの例）

年間の薬剤費	患者負担額
1,150クローネまで	全額患者負担
1,150クローネから 5,645クローネまで	1,150クローネ + 超えた額の一定割合
5,645クローネ超	2,300クローネ

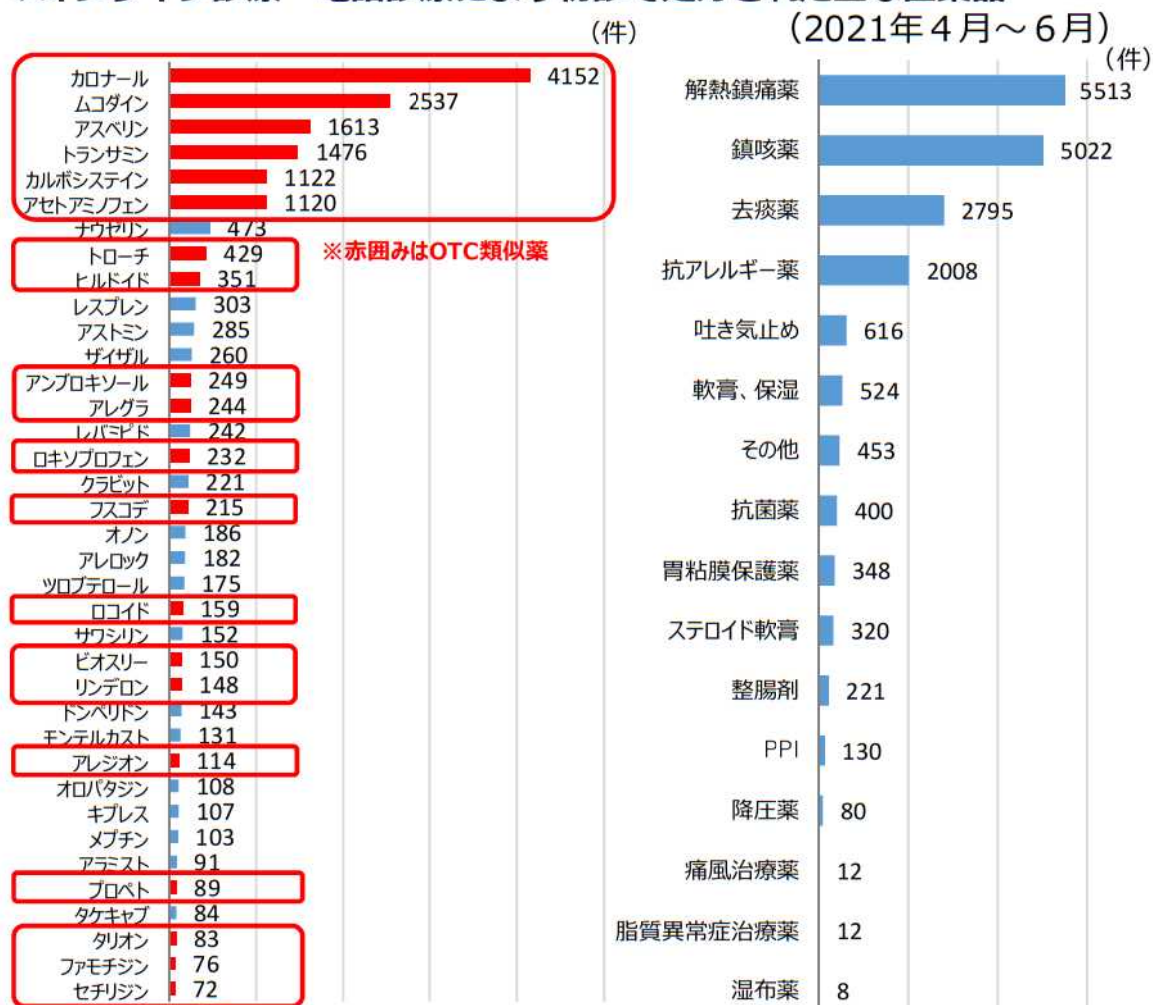
(注) 1クローネ=13円（令和3年11月中において適用される裁定外国為替相場）

既存医薬品の保険給付範囲の見直し②

○ とりわけ、**OTC類似医薬品**については、

- ・現在実施している**オンライン診療・電話診療**では、**OTC類似医薬品が処方**されるケースが多いこと、
 - ・OTC薬が使用可能な疾患領域において、OTC薬で対象可能である症状に対する保険診療について、**OTC置き換えによる医療費適正化効果が高いこと**（医療費適正化効果が2,300億円程度とする試算が存在）、
- などを踏まえ、セルフメディケーションを進める観点からも、**保険給付範囲からの除外や縮小などの適正化を検討すべき**である。

◆オンライン診療・電話診療により初診で処方された主な医薬品



◆OTC置き換えによる医療費削減効果の推計

疾患のうち、OTC薬が現在使用可能である「既存領域」及び将来的なOTC導入可能性のある「新規領域」について、レセプトデータから、OTC薬で対象可能とされる患者数を推計し（※）、平均的な当該疾患のみでの保険診療の医療費（薬剤費の他、初診・再診療等を含む）を掛け合わせて試算したものの

※例えば、「かぜ症候群」からは、かぜが主傷病である患者から、

- ・インフルエンザや急性扁桃炎などの患者
 - ・過去5年以内に肺炎や喘息などの疾患がある患者
- を除外して集計。

疾患	既存領域			新規領域			
	人数 (A,万人)	医療費 (B,円)	総額 (億円)	疾患	人数 (A,万人)	医療費 (B,円)	総額 (億円)
かぜ症候群	560.0	7,200	403.2	腰痛・肩痛の筋弛緩薬	13.0	10,486	13.6
頭痛	126.7	5,300	67.2	過敏性腸症候群	16.3	7,617	12.4
腰痛・肩痛	92.0	8,830	81.3	高血圧	985.6	8,085	796.9
便秘	234.5	5,749	134.8	片頭痛	49.3	10,655	52.5
胸やけなど	287.8	7,457	214.6	胸やけなどのPPI	10.3	8,745	9.0
鼻炎	1668.7	8,561	1,428.7				
合計			2,329.7				884.3

既存領域2,330億円・新規領域880億円、合計3,210億円

(出所) 厚生労働省「セルフメディケーション推進に関する有識者検討会」
2021年2月3日 五十嵐中准教授説明資料